

# 高温に強くおいしい水稲品種「なつほのか」を作付けしましょう

お問合せ先

農業振興普及課  
0920-45-3038

「なつほのか」は夏の高温に強く、高収量と高品質による所得向上が見込まれるため、吉岐地域では平成30年から集落営農法人を中心に作付の推進拡大を図ってきました。

今年度、普通期作ではウンカや台風による被害が少なく、登熟期間も好天に恵まれたため収量は平年並となる中、「なつほのか」は品質も良く、1/24時点で1等米比率**100%**となっています。

さらに、令和2年産米の食味ランキングでは「にこまる」と共に最高ランクである**特A**を獲得しており、今後も水稲農家の所得向上・安定に向けて「なつほのか」の作付を推進していきます。

OR3年産「なつほのか」と「ヒノヒカリ」の収量と品質

品種名	精玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	検査等級	品質低下要因
なつほのか	637	23.3	1等	—
ヒノヒカリ	601	21.3	2等	充実不足



※R3年吉岐での栽培試験(分施体系)データより

○食味試験の結果

順位	品種名	にこまる	なつほのか	ヒノヒカリ
1位		5票	16票	4票
2位		12票	7票	6票
3位		8票	2票	15票

- ・R3年産米の3品種の試食会を行ったところ「なつほのか」が最も美味しいという結果になりました！
- ・「なつほのか」は粒が大きく、多収で食味も優れる品種です。
- ・まだ、「なつほのか」を食べたことがないという方はぜひ一度、食べてみてください！

※品種名は伏せて、美味しいと思う順に順位付けをしてもらった

## 吉岐地域肉用牛大学を開催しました！！

～繁殖牛の飼養管理改善が経営改善のカギ、牛づくりは草づくり～

お問合せ先

農業振興普及課  
0920-45-3038

去る11月末に、出口祐一郎氏（NOSAI宮崎 生産獣医療センター）を講師に招き、吉岐地域肉用牛大学を吉岐の島ホールで開催しました。昨年はコロナの影響で規模縮小し、ケーブルTVでの配信となりましたが、今回は感染予防対策を徹底し、118名に参加いただきました。

出口氏の講演では牛の能力を最大限に引き出すために、牛の生理にあった飼料設計や粗飼料の品質向上、水槽の清掃徹底、牛群密度の適正化による環境改善が重要という話がありました。

またJA畜産部長による「第9次営農振興計画」に関する情報提供、吉岐振興局農林水産部長による「吉岐地域の肉用牛の課題」と題した自給飼料における栄養成分の重要性、奨励品種の活用と排水対策徹底による子牛生産コスト低減、放牧を活用した牛の繁殖性改善に関する講演がありました。参加者から「たんぱく質含量が高い品質の良い牧草を作ることの重要性を再認識した」等の感想があり、適期収穫の意識づけができました。出口氏には肉用牛繁殖農家の巡回指導にも同行いただき、飼養管理等のアドバイスをいただいています。今後も地域肉用牛振興に向け、肉用牛大学を継続的に開催していきます。



肉用牛大学の様子



現地指導の様子